

令和4・5年度 川口市教育委員会委嘱 研究紀要

豊かな表現力の育成

～友達との関わりを楽しみ、表現する喜びを味わおう～



川口市立南平幼稚園



川口市教育委員会教育長

井上清之

川口市立南平幼稚園は、令和4・5年度川口市教育委員会の委嘱を受け「豊かな表現力の育成～友達との関わりを楽しみ、表現する喜びを味わう～」を研究主題とし、研究を推進してこられました。研究の成果をここに研究紀要としてまとめられたことに、心から敬意を表します。

幼児期の教育は、生涯にわたる人格の基礎を形成する大切な役割を果たしており、教師が幼児一人一人に応じた適切な援助を行いつつ、遊びを中心とした幼児の主体的な活動を通して生きる力の基礎を育むものであります。本園では、音楽を手立てに、教師や友達との関わり合いを通して、心豊かに表現する喜びや楽しさを味わえるよう、幼児の視点に立った教師の援助や環境の構成について実践・評価・改善を繰り返しながら研究を積み重ねてこられました。教職員が一丸となって取り組まれた本園の研究は、幼児一人一人の可能性を伸ばし、予測困難な時代においても他者と協働しながら創造的に生き抜くために必要な資質・能力の基礎を育むものであり、幼稚園教育の在り方について多くの示唆を与えてくれるものであると確信しております。

結びに、本研究に取り組まれた柏奉子園長をはじめ教職員の皆様のご努力に敬意を表するとともに、今後も幼稚園教育の発展に向けご尽力くださることをご期待申し上げ、挨拶いたします。



川口市立南平幼稚園園長

柏奉子

本園では、令和4・5年度川口市教育委員会研究委嘱「幼稚園教育」を受け、研究主題を「豊かな表現力の育成～友達との関わりを楽しみ、表現する喜びを味わう～」に設定し、『音楽』を手立てに、研究・実践を深めてまいりました。

研究にあたっては、幼児が生活や遊びの中で、音やリズムの心地よさを味わい、音楽に親しみ、のびのびと表現する楽しさや美しさを感じられるように、楽譜やリズム楽器を揃えるなど、様々な音楽環境を整えてきました。また、年少、年中、年長で「今月の歌」を一緒に歌い、幼稚園行事や幼稚園での集まりでも、友達と表現することを楽しんできました。

今後も、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』及び子育ての目安『3つのめばえ』を念頭に置き、手遊び歌や歌を歌ったり、一人一人の思いやイメージを工夫し、マラカスなどの楽器を作ったり、手作り楽器やリズム楽器などを演奏する喜びを体で感じることで、さらに美しい音楽を聴くことなど、幼児のみずみずしい感性を大切に、日々幼児教育を向上させていく所存でございます。

結びに、本園の研究に際しまして、ご指導ご助言を賜りました文教大学教育学部発達教育課程幼児心理教育専修教授 小畑千尋 様、川口市教育委員会教育長 井上清之 様をはじめとする諸先生方に心より感謝申し上げます。今後もよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

幼稚園教育目標
明るく元気な子 なかよく遊ぶ子 よく考える子

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
5領域
健康・人間関係・環境・言葉・表現
埼玉県教育委員会子育ての目安「3つのめばえ」
○生活 ○他者との関係 ○興味・関心

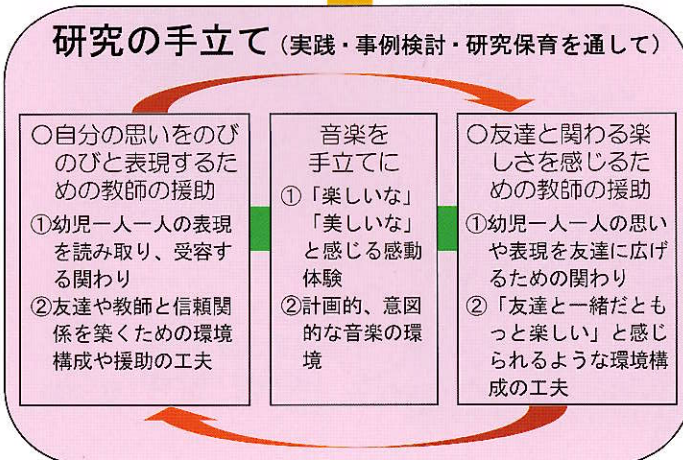
目指す幼稚園像
豊かな表現力を育み、笑顔あふれる幼稚園
豊かな表現力=①知的な好奇心②伝え合う力③感動する心

幼児の実態
・明るく素直で穏やかな幼児が多い。
・幼稚園や家庭で、歌ったり音楽を聞いたりすることに喜んで関わる幼児が多い。
・感じたことやイメージしたことを表現する姿やその方法には、個人差が見られる。

研究主題
「豊かな表現力の育成」
～友達との関わりを楽しみ、表現する喜びを味わう～

育てたい幼児像
年少組 生活や遊びの中で、音やリズムの心地よさを味わい、音楽に親しむ幼児
【友達との関わりを楽しむ】
年中組 様々な音やリズムに触れ、音楽に親しむ中でのびのびと表現する楽しさを感じる幼児
【友達と一緒にイメージすることを楽しむ】
年長組 音やリズムに親しみ、音楽に合わせて友達と一緒に表現することを楽しむ幼児
【思いやイメージを実現するために友達と相談する】

研究の仮説
○幼児の発達段階に合わせて、自分の思いを表現したり相手の思いを受け止めたりしながら、友達と関わる楽しさを感じられるような保育を意図的、計画的に進めれば、幼児が表現する喜びを味わい、豊かな表現力が育まれるだろう。
○計画的な音の環境の中で、音楽を手立てに表現したり友達と関わったりする保育を展開すれば、音楽の美しさを感じ、感動する心が育まれるだろう。



一緒に歌おう！ 3歳児 6月

ねらい ○教師や友達と一緒に歌ったり、楽器を使って遊んだりする中で、音やリズムの心地よさや楽しさを感じる。

幼児が好きな遊びを楽しむ中で、CDプレイヤーから流れる音楽に合わせてタンブリンを鳴らしたり、歌ったりする幼児の姿が見られる。そこに、Aがピアノの鍵盤の絵が描かれた段ボール箱を持ってきて、音楽に合わせてピアノを弾く真似をしながら『ことりのうた』を歌い始める。Bが「入れて」とAに声をかけ、2人でAの持ってきた箱を使って、ピアノを弾くように指先で箱を叩いたり、手のひらで箱を叩いたりしながら、『ことりのうた』をロずさんたり、音楽に合わせて体を揺らしたりしている。AとBの姿に興味をもったCが「私もほしい」と教師に伝える。教師はCに、箱に白い画用紙を貼りクレヨンで鍵盤の絵を描いたものを作って見せ、幼児に色を塗って自分のピアノ作りをすることを提案し、Bは色を塗ってピアノ作りを始める。ピアノを作り終えたCと教師が、AとBが遊ぶ場に戻ってくると、Aが「先生もおいで！一緒に歌おうよ！」と言う。教師が「うん！みんなで一緒に歌おう」と答えると、Bが「見て」とタンブリンを持ってきて見せる。「Bくんはタンブリンにしたのね」と教師が声をかけ、Bが「うん！」と答える。Cは「私はピアノ」と作ったピアノを示しながら言う。教師は「CちゃんとAくんはピアノだね」と友達の持っているものが同じことを伝えると、A「ぼくもピアノ！」とCと顔を見合わせて嬉しそうにする。「タンブリンとピアノの音で歌がもっと楽しくなりそうね」と教師が声をかけると、Aが「よし！とりさん歌おう」と言い、CDプレイヤーを操作しようとする。教師は幼児に操作の仕方を知らせながら、一緒に『ことりのうた』を流すと、思い思いに、歌ったり、タンブリンを鳴らしたり、ピアノを弾くように箱を鳴らしたりして楽しむ姿が見られた。



幼児が日頃から親しんでいる楽器や音響機器を幼児が自由に使って遊べるように継続して環境構成を行ってきたことに合わせて、Aがピアノの絵が描かれた箱を持ってきたことで、今回の、歌ったり楽器を鳴らしたりすることを楽しむ遊びがさらに広がっていった。幼児が好きな遊びの中で、興味や関心をもって、自ら関わってみたいと思えるような環境構成の工夫をし、教師と一緒に遊びに入って楽しい気持ちに共感しながら、それぞれの表現を楽しむ姿を認めたり、何気ない気付きを受け止め、周りの友達にも共有していったりしたことで、幼児が友達と一緒に表現を楽しむ姿につながった。

ねらい ○自分の思いを表しながら、友達と表現することを楽しむ。

遊びの中で生き物探しを楽しむ幼児の姿を話題にし、クラスの時間にペープサートを見せながら、ゆっくりと歌い『むしのこえ』の新曲指導をする。教師の歌声をよく聴こうとする姿やペープサートを目で追う姿が見られた。教師が「いろいろな虫が出てきたね」と投げかけると、A「ミーンミンって鳴く虫もいるよね」B「セミだよ」C「カマキリはどうやって鳴くんだろう？」A「カリカリって鳴くんじゃないかな？」「バッタは？」D「スイスイって鳴くのかな？」E「チョウはどうやって鳴く？」F「鳴かないんじゃない？」と身近な虫の声について話が盛り上がる。ペープサートを動かしながら、もう1度『むしのこえ』を歌うと、「ガチャガチャ ガチャガチャくつわむし」のリズムや言葉を好み、友達と顔を見合わせて笑ったり、うなずきながらリズムをとったりする姿が見られた。教師が「好きな虫の声のところを歌ってもいいよ」と伝えてから歌うと、「秋の夜長を鳴き通す ああおもしろいむしのこえ」の繰り返しのフレーズを口ずさむ姿も見られた。最後に「寝る前に虫の声が聴こえるか聴いてみてね」と伝え、その日の降園時に保護者にもクラス活動の内容を知らせた。

翌日のクラスで話題にすると、A「チンチロ チンチロって聴こえたよ」Dは、絵を指さしながら「この虫の声が聴こえたよ」と、次々に自分の家の近くで聴こえた虫の声を伝える姿が見られた。一人ずつ家で聴こえた虫の声、本当に聴いてみたいと思う虫の声を伝え合うことにした。一人ずつ聞きながら、教師がフレーズごとに歌う。教師の歌う『むしのこえ』のフレーズに合わせて幼児も歌う姿が見られた。歌い終わると、「本物の虫の声も聴いてみたい」「見てみたい」と話す。『むしのこえ』からイメージできるカバサ、トライアングルをクラスの楽器コーナーに増やすと、特にカバサに興味をもち、音を鳴らし「クツワムシだ」と嬉しそうに何度も楽器を鳴らす。楽器の音を聴き、教師が「ガチャガチャ」と歌うと、幼児も歌ったり、身振り手振りで虫の動きをしたりする姿が見られた。その後、幼児同士でペープサートを動かしたり、楽器を鳴らしたりする楽しんだ。



幼児が興味をもっている虫を話題に取り上げながら質問を投げかけたことで、いろいろな虫が登場する歌に興味をもつ姿が見られた。また、幼児の遊びや生活に関連づけてクラスで新曲を知らせたことで、自分の知っている虫の声を知らせたり、考えを伝えたりする姿につながっていった。思いやイメージを友達に伝え合い、遊びを楽しむ姿には個人差があるが、ペープサートを遊びに取り入れることで、友達にイメージが伝わり、楽器や身振り手振りで『むしのこえ』を表現するなど、さらに友達との表現が広がっていく姿が見られた。

ねらい ○友達とイメージを共有し、思いを伝え合いながら表現することを楽しむ。

『きらきらぼし』や『たなばたさま』など、星に関する歌に親しむ姿を受け、トライアングルを準備し、鳴らし方を知らせる。興味をもったA、B、Cが音を聴き、B「すごくきれい」C「リーンって音がたくさんする」と感じたことを言葉にする。CDの『きらきらぼし』に合わせて音を鳴らすと、Cが「お星さまの音みたいだね」と言う。教師も「『きらきらぼし』にぴったりだね」とCの思いに共感する。その後も5、6人の幼児がトライアングルや鈴の音をお星さまの音に見立てて『きらきらぼし』の曲に合わせて鳴らすことを楽しんだ。

クラスの時間にAらの遊びの様子を全体に知らせ、教師が「みんなでお星さまの音をならしてみよう」と誘うと、「トライアングルがいい」「何にしようかな」と口々に言う。自分で選んだお星さまにぴったりの音（楽器）をみんなでも鳴らしてみる。トライアングルを選ぶ幼児も多いが、鈴を選ぶ幼児もいる。まずは教師のピアノの伴奏に合わせて一人一人が自分の思いで楽器を鳴らす。四分音符のリズムで鳴らす幼児が多い。曲が終わると「きれいだった」「楽しかった」という声が聞かれた。教師が「次はお星さまの音ももっときれいに聴こえるように同じ楽器のお友達と合わせてみよう」と話をする。トライアングルは人数が多いので、2つのグループに分かれる。それぞれのグループでどのようにお星さまの音を鳴らすか相談していけるように援助する。トライアングルグループ1の幼児は、Aが中心となって相談し、タンウンタンウンのリズムで鳴らすことになる。全てのグループの相談が終わったところで、グループごとにピアノの伴奏に合わせて音を鳴らすことを伝え、「他のグループの人は歌って応援してね」と話す。演奏が終わると他のグループの幼児から

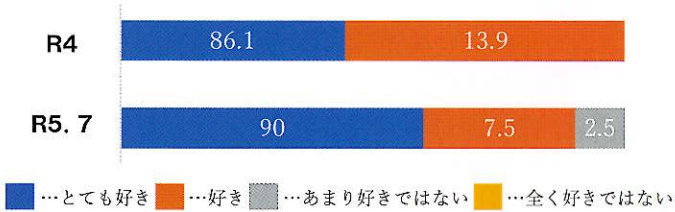
「いい音だった」
「本物のお星さまみたい」
「流れ星みたいだった」などの声が聞かれ、演奏した幼児も嬉しそうな表情だった。



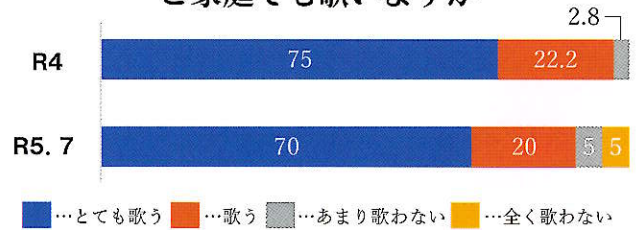
『きらきらぼし』の曲に合わせて楽器を鳴らすことでトライアングルや鈴の音が「お星さまの音」というイメージにつながり、友達とお星さまの音を合わせようという投げかけがリズムを決めて音を鳴らす遊びへと発展していった。これまで繰り返し歌ったり楽器を演奏したりしてきたことで、幼児が「音が合う」ということを感じ取り、「音が合っている」ことをきれいだと感じるようになってきていることがうかがえた。自分たちで演奏するだけでなく、他のグループの演奏を聴くことで、さらにイメージが広がる様子も見られた。

音楽アンケート(保護者)の結果より

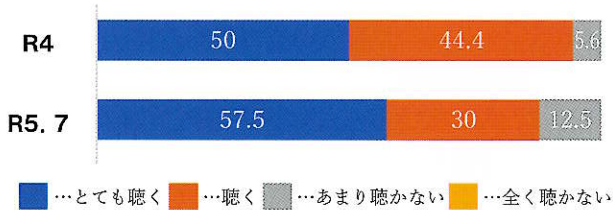
1 お子さんは歌を歌ったりすることが好きですか



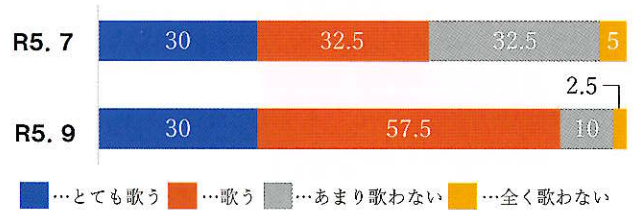
2 幼稚園で歌っている歌をご家庭でも歌いますか



3 ご家庭で音楽を聴きますか



「今月のうた」を家庭でも歌いますか



アンケートの結果から

- ①歌を歌ったりすることが「とても好き」と答えた割合が昨年度と比べて増加した。これは、遊びや生活の中で、「今月のうた」や季節に合った歌をいつでも聴けるように環境を整えたり、学級で歌を歌う活動を積極的に取り入れたりして、幼児が歌を歌うことを楽しいと感じられるような工夫をした成果と言える。
- ②「とてもよく歌う」「歌う」の割合が、令和4、5年度とも90%を超えている。幼稚園だけでなく家庭でも歌に十分親しみ、歌うことを楽しんでいることが分かる。
- ③「よく聴く」と答えた割合が昨年度と比べて増加した。幼児や保護者の話から、幼稚園で親しんでいる手遊び歌や歌、リズムの曲などを家庭でも親しみをもって聞いている様子がある。
- ④「歌う」と答えた割合がとても増えた。「今月のうた」を誕生会などの行事で園全体で歌ったり、学級で繰り返し歌ったりするとともに、「今月のうた」に親しめる環境（ペープサート、マグネットシアター、写真など）を積極的に取り入れた成果と考えられる。

「今月のうた」の取り組み

9月「おしのこえ」の各クラスの取り組み

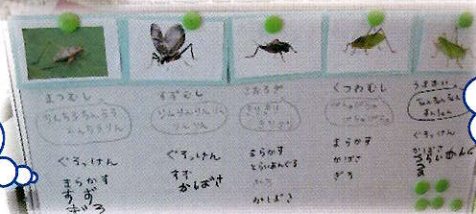


マグネットシアターで遊ぶ(年少組)



おしのこえのペープサート(年中組)

歌詞に出てくる虫の写真と名前と鳴き声(年長組)



グロッケンで虫の声を表現(年長組)



<幼児の変容>

- 幼児が教師や友達と信頼関係を築けるように教師が援助し、個々の思いや表現を読み取ったり受容したりすることで、一人一人が歌ったり楽器を演奏したり曲に合わせて体を動かしたりすることを十分に楽しみ、安心して自分の思いやイメージをのびのびと表現するようになった。
- 発達段階に応じて友達との関わりが広がったり深まったりするような援助を工夫することで、「友達と一緒にだともっと楽しい」と感じる姿につながり、友達と一緒に思いやイメージを表現することを楽しむようになった。

<研究で分かったこと>

- 教師が楽器や音響機器、視聴覚教材を使って表現していけるような環境を整えたり、生活や遊びの様々な場面で音楽に触れられるように工夫したりすることで、幼児が自分たちの興味や関心に合わせて表現する姿につながるということが分かった。
- 園全体で毎月「今月のうた」を決め、継続して歌ったり行事の中で親しむ機会を設けたりすることが、友達と一緒に声を合わせて歌うことを楽しんだり歌のイメージを様々な方法で表現したりする姿につながるということが分かった。

<今後へ向けて>

- 計画的に音楽環境を整えられるよう指導計画の見直しを図るとともに、教師一人一人が音楽的な知識を深め、幼児がさらに音や音楽を通した感動体験を積み重ねられるようにする。
- 幼稚園で親しんでいる歌や手遊び歌、リズムなどに家庭でも親子一緒に親しんでもらえるような発信の仕方を探り、幼児が様々な場面で音楽に触れ、豊かな感性が育まれるようにする。

おわりに

本園では昨年度より「豊かな表現力の育成」を研究主題に掲げ、「自分の思いをのびのびと表現するための教師の援助」「友達と関わる楽しさを感じるための教師の援助」という手立てをもとに、友達との関わりを楽しみ、表現する喜びを味わう幼児を育むために研究に取り組んでまいりました。また、幼稚園教育において育みたい資質・能力を、5領域のねらい及び内容に基づいて育てることや「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、日々の保育の中で大切にしてきました。保育実践や事例研究を中心に研究を進める中で、音楽環境の充実と、幼児一人一人の表現を受容する教師の関わりなどが大切であることを園全体で共通理解することができ、音や音楽を手立てに、友達と一緒にのびのびと表現する幼児の姿につながっていきました。

この研究に際しまして、ご指導いただきました文教大学教育学部発達教育課程幼児心理教育専修教授 小畑千尋様、川口市教育委員会教育長 井上清之様、教育委員会の諸先生方に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ご指導いただいた先生方

文教大学教育学部発達教育課程 幼児心理教育専修教授
川口市教育局学校教育部次長兼指導課長
川口市教育局学校教育部指導課主幹兼指導係長
川口市教育局学校教育部指導課主幹兼教育研究所副所長
川口市教育局学校教育部指導課指導主事
川口市教育局学校教育部指導課指導主事
川口市教育局学校教育部指導課指導主事

小畑 千尋 様
丸山 陽一 様
池田 光伸 様
中村 義郎 様
伊東 よお子 様
譜久村 航 様
富澤 雅敏 様

研究に携わった職員

園長	柏 奉子	主任	筒井 佐知子
	込田 円	◎高橋 潮音	吉野 沙希
	脇山 美穂	平出 美香	山内 素子
	出羽 奈保子	高島 いづみ	伊澤 佐知子
【令和4年度】	出井 真理子	福世 李菜	畠山 弘美